

第1回文京区アカデミー推進協議会(スポーツ分科会) 要旨記録

日 時 平成27年6月3日(水) 18:30～20:30
会 場 文京シビックセンター3階 大ホール会議室2
委 員 会 長 青木 和浩 (順天堂大学准教授)
委 員 鴻瀬 太郎 (小学校PTA連合会 会長)
委 員 田辺 武之 (文京区体育協会 副理事長)
委 員 森岡 隆 (文京区国際交流フェスタ実行委員会 委員長)
委 員 小林 博 (区民公募委員)
委 員 金坂 吉雅 (区民公募委員)
委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員)
欠席 委 員 井上 充代 (文京区スポーツ推進委員会 副会長)
事務局 熱田 直道 (アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長)
細矢 剛史 (アカデミー推進部スポーツ振興課長)
支援事業者 株式会社創建 氏原・本多

資 料 参加者名簿
指定管理者制度について
事業パンフレット等
平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表
平成26年度 アカデミー推進計画取組状況結果

議 事

1. 開 会

2. 委員等紹介・進行の確認

会長からの挨拶ののち、各委員から自己紹介が行われた。
事務局より配布資料の確認が行われた。

3. 議題

(1) アカデミー推進計画のスポーツ分野における平成26年度の進捗状況の評価

事務局より、「指定管理者制度について」に基づき指定管理者制度、「平成27年度アカデミー推進計画進行管理表」、「平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果」に基づきアカデミー進行計画の取組状況について説明を行った。

青木会長 区の運動施設の稼働率は高いということでよいか。
事務局 高い。一番稼働率が高い施設は小石川運動場で、ほぼ100%の稼働率となっている。スポーツセンターと総合体育館についても同様に高くなっている。江戸川橋体育館については、トレーニングルームやプールがないことから若干稼働率が低くなっているが、それでも近年稼働率は増加している。

- 竹早テニスコートと目白台運動公園テニスコートはほぼ100%を維持している。後樂園少年野球場は冬場に使えないこともあり、また、少年野球場ということで平日の昼間の利用はほとんどないため稼働率は100%とはいかないが、それでも近年増加している。六義公園運動場については、春と秋に運動会での利用が多くなっている。
- 青木会長 こういった稼働率の高さは他の自治体ではあまり見られない。文京区の特徴だと考えている。
- 小林委員 目白台運動公園は指定管理者が管理しているのか。テニスコートなど運動施設の数が多いが、スポーツ振興課の所管ではないのか。
- 事務局 目白台運動公園は公園という位置付けで所管がみどり公園課となる。そこでの指定管理者制度に則ったかたちで管理・運営を行っている。
- 青木会長 文京区内の運動施設や公園は指定管理者制度に基づき、指定管理者の裁量で管理運営が行われている。指定管理者のいない公園では特に制限がないこともあるが、そういったことを念頭に置いて議論していきたい。
- 黒田委員 次に、アカデミー推進計画のスポーツの分野について議論したい。
- 事務局 文京ジュニア・アスリート・アカデミーの応募が定員を上回ったとのことだが、2年間の枠でということか。また、今年度は募集はしないのか。
- 黒田委員 2年間の枠であり、今年度は募集を行う年度にあたる。次回は平成28・29年度の募集となる。
- 青木会長 申し込みもそれだけ多いのであれば、毎年募集するなど、対象者を増やせるとよいと思う。
- 森岡委員 一人ひとり本格的な指導をしているため定員があるが、子どもたちへの事業を増やしていく必要はあると感じている。文京区には直線100mや400mトラックもなく体育館で走ったりしている。
- 事務局 子どもたちの運動場所が少ないことについては、何か区で考えていることはあるのか。
- 青木会長 新たに運動場所をつくることは難しいため、工夫していきたいと考えている。
- 森岡委員 ランニングに特化した運動公園の整備などが一つの対策となるのかもしれない。
- 事務局 ニュージーランドと交流があり、子どもの運動環境を見比べると、あちらの子どもはのびのびとしており、大きな違いがある。文京区では物理的に新たな場所をつくるのは難しいと思うが、子どもたちがのびのびとできる環境づくりを考えていかなければならない。
- 鴻瀬委員 校庭開放事業も行っているが、子どもの安全管理を考えると、その人員確保に苦勞しているという状況がある。また、学校開放で大人の区民の利用要望もあり、子どもだけのためということも難しい状況もある。この問題は文京区内のみでは解決できないので、他の地域との連携という視点が必要だと感じている。文京区の子どもの数も増えており、運動会も自校で開催できず運動公園や他の学校に協力をあおぐ状況も発生している。
- 子どもひろばの開放校17校とあるが、やっていない小学校がどの地域の小学校になるか。

事務局	こどもひろばを実施していない学校は3校あるが、児童青少年課所管の事業として解放しているため、学校を開放していない訳ではない。自主運営校が指ヶ谷・本郷・誠之・湯島の4校、直営で実施している学校が礪川・柳町・青柳・関口台町・小日向台町・金富・窪町・大塚・根津・千駄木・汐見・昭和・駒本小学校の13校、放課後全児童事業を実施しているのは林町・明化・駕籠町小学校の3校となっている。
鴻瀬委員	文京区内で区民のみで全て対応するのは難しいと感じている。大人も子どもも運動をするという習慣を身につけて、色々な場所で取り組めるようになるとうと考えている。これらの事業も稼働率が100%近くとなっており、これ以上利用が増えても活動する場所がないのが実情である。
森岡委員	ないものねだりをしてもしょうがないので、何か工夫していく必要があるのではないかと。
鴻瀬委員 事務局	重複している事業を整理・一本化するなどの方法はあるかもしれない。例えば高齢者の運動は福祉部で行っていることもあり、区でも窓口を一本化していくことは今後の課題だと認識している。やっていることは同じでも各所管で目的が異なるということもある。全体を俯瞰して行政としての取り組み方を考えていく必要があると考えている。
小林委員	フライングディスクについて、内容や利用者数を教えてほしい。老若男女楽しめるものなのか。
事務局	柔らかいフリスビーのようなものを用いるスポーツで様々な競技がある。本来は屋外で行うスポーツだが、フリスビーのように投げる競技だけでなく、ドッジボールのような競技もある。1年間経って初心者から始めた方も上達しており、徐々に盛り上がってきている。年齢層も小学生から50代くらいの方がいる。
青木会長	これまでの議論を総括すると、「スポーツの取組は充実している」「スポーツを行う場所については、新たな施設をつくることは難しいとして、近隣の施設等を活用していくことが課題」「学校の施設開放については、管理責任の所在を明確にすることが難しいという現状が解決できていない」といったところが評価となると考えている。
鴻瀬委員	スポーツの観戦や指導者の育成について、お気づきの点等はあるか。
事務局	ワールドカップ時のパブリックビューイングは朝が早かったが、すごい人が集まっていた。どのような取組をしたのか。
事務局	区のホームページや民間のウェブサイトへのアプローチ、SNSを活用した。その結果、水曜日の朝5時開始だったが、1,800席のホールがほぼ満席となった。都内のほかの場所ではパブリックビューイングが行われていなかったことも人が多かった要因かもしれない。
黒田委員	スポーツ情報をインターネットで発信していくことはとても効果があることだと感じる。今後も色々と工夫できるとよい。
青木会長	情報の一元化が求められる一方で、世代ごとにメディアを使い分けた広報も効果があるかもしれない。
金坂委員	区のホームページは若い人にとっては固いイメージがあり、SNS等の方が情

	報を取得しやすいかもしれない。
事務局	SNSのよいところは、情報が拡散していく点だと感じている。
青木会長	こういったアイデアを次のワークショップで皆で出し合っていきたい。まずは評価について考えたい。 スポーツ指導者の育成についてはどうか。前年度はボランティア制度の確立を目指すという評価があり、制度ができてきたという流れがあるが、実際、スポーツ推進委員の研修制度や委員の高齢化等が全国的に課題となっており、また、障害者教育についても高度な専門性が問われているため、それらを担保していく難しさはあるかもしれない。
鴻瀬委員	スポーツ推進委員の協力で、小学校入学時に親子の交流会を実施している学校があり、その取組が他の学校にも広がっていった。例えば、専門的な種目でなくとも、スポーツ推進委員と協力して、親子と学校の交流のきっかけづくりにスポーツを活用していくことは効果的かもしれない。
青木会長	スポーツリーダー、スポーツ推進委員の単位認定については、基礎と専門性に分かれる。コミュニティプログラムなどに種目を絞るという視点はあってもよいかもしれない。
森岡委員	例えば指導者の資格を持っていても、初心者向けと経験者向けの指導では、人によって得手不得手があると思う。また、子どもに教えるのがうまい人と大人に教えるのがうまい人ということも、同じ資格の保有者であっても分けられると感じている。
青木会長	指導者について総花的に議論をしているが、今後は、ある視点に着目して取組を考えていくことが求められるかもしれない。例えばコミュニティプログラムに特化してスポーツを推進していくということが区のオリジナリティを出していくうえでも重要になるかもしれない。
森岡委員	競技指導だけでなく、様々な見方ができるかもしれない。
青木会長	技術的な階層だけでなく、年齢でも階層という視点も重要になるかもしれない。
森岡委員	広報についても、お金がかかることだが、半端なものをつくるよりは、手元に置いておけるしっかりしたものをつくるほうが、高齢の方にはよいかもしれない。
事務局	これまでの議論は事務局で次回までに整理してあらためて報告する。

(2) 文京区の特徴や課題の検討(ワークショップ方式)

ワークショップ形式により、文京区のスポーツ分野における特徴や課題について意見を出し合った。主な意見は以下のとおりである。

●特徴

〈する〉

- ・イベントなどのスポーツに触れるきっかけが多くある
- ・ラジオ体操発祥の地という特徴がある
- ・運動施設の稼働率が高く、運動が盛んに行われている

〈観る〉

- ・東京ドームがあり、野球をはじめプロスポーツ等の団体がある

〈支える〉

- ・プロスポーツ等の団体や大学が多い
- ・競技団体の拠点が多い

●課題

〈する〉

- ・チームスポーツに個人で参加するので入りにくい
- ・子どもの体力低下が改善していない

〈観る〉

- ・観戦料金や施設の利用費用が高い
- ・スポーツ施設に観覧席がない

〈支える〉

- ・子どもの外での遊び場が少ない、公園でボールを投げることができない
- ・情報の周知が不十分である

●今後の方向性

〈する〉

- ・民間フィットネスクラブ等との連携を検討する
- ・小さなスペースでスポーツができる工夫を行う

〈観る〉

- ・区内で行われるスポーツの共通割引チケットを設定する
- ・プロアマ問わずケーブルテレビ等で中継する

〈支える〉

- ・情報提供方法を整理する(重複しているものの一元化とSNS活用等の多様化)

4. 閉 会

以上